

World Wide Web Consortium (W3C)

1. 組織概要

World Wide Web Consortium (W3C) は、WWW技術の標準化と推進を目的とした国際的な非営利の学術研究開発組織である。現在は米国のマサチューセッツ工科大学計算科学研究所 (MIT/LCS)、フランス国立情報処理自動化研究所 (INRIA)、そして日本の慶應義塾大学SFC研究所の3者がホスト組織として共同運営している。

W3Cは、WWW関連技術の標準化を中立的な立場で推進・提供することで、よりよいWWWシステムの実現とWWWのグローバルな発展を目指している。

2. W3C会員

W3Cは会員組織と協力して、標準規格の制定を行う。会員契約に合意すれば、いかなる組織でも会員として参加することができる。W3Cに会員として参加することには、下記のような利点がある。

- ・ WWWに関する標準規格の提案・制定に参加することができる
- ・ 規格のドラフトなど各種情報を、一般公開される前に参照することができる
- ・ ワークショップ、ワーキンググループ、インフォーマルミーティングなどに参加することができる
- ・ メーリングリストなどを利用して、W3Cスタッフと直接情報交換ができる
- ・ 会員専用WWWページ、ニュースレターなどを通じて、常に最新情報を得ることができる

1998年3月現在、W3C会員として、インターネット関連産業や計算機関連産業、情報産業をリードしている主要な企業を多数含む、250を超える組織が世界各国から参加している。

3. 活動内容

W3Cは、研究者・技術者および利用者を対象として、WWWに関するさまざまな情報の提供、標準規格の制定と開発の促進、新技術のためのプロトタイプやサンプルアプリケーションの開発などに取り組んでいる。

W3Cの活動は、以下のドメインに分かれている。

- ・ ユーザーインターフェイス <http://www.w3.org/UI>
WWWを利用した情報の取り扱いや表現についての研究・開発を行うドメインである。HTMLやスタイルシート、WWWの国際化などを行っている。
- ・ 技術と社会 <http://www.w3.org/TandS>
WWWを利用する上で生じるさまざまな社会的な問題を、技術的かつ社会的にとらえ直して研究・開発を行うドメインである。
- ・ アーキテクチャー <http://www.w3.org/Architecture>

WWWを支える基盤技術の開発を行うドメイン。通信プロトコルの開発、マルチメディア情報の取り扱いの標準化などを行っている。

- ・ WebAccessibilityInitiative (WAI) <http://www.w3.org/WAI>

WWWのアクセシビリティ向上のために、仕様開発に協力したり、ガイドラインやツールの作成、教育活動などを行っている。

4. W3C勧告プロセス概説

W3Cのワーキンググループで研究・開発された仕様は、W3C会員により正式に承認されなければならない。仕様はワーキングドラフト・勧告案というレビュー段階を経てW3C勧告となる。

レビューを重ねて仕様として安定してきたワーキングドラフトは、W3C Directorの検討・承認を受けて勧告案となり、W3C会員により正式なW3C勧告とするかどうかの投票が行われる。

投票は、W3C会員組織からの各1名の代表により構成されるW3C Advisory Committeeにより、勧告案をW3C勧告とすることに対して、1) 賛成 2) 条件付き賛成 3) 指摘する欠陥が修正されなければ反対 4) 反対のいずれかの票を投じることで行われる。

会員による投票期間中、ワーキンググループでは、細かな技術的問題があればそれを解決し、その結果をW3C Directorに報告する。この後、W3C Directorは当該案に対して

- ・ W3C勧告として承認する (細部の修正はあり得る)
- ・ ワーキングドラフトに戻す
- ・ W3Cの活動項目から外す

のいずれかの決定を行う。

会員による投票と検討の期間は、約6週間である。

(World Wide Web Consortium)

問い合わせ先

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスSFC研究所 W3C

住所: 〒252-8520 神奈川県藤沢市遠藤5322

TEL/FAX: 0466-49-1170 E-mail: w3c-keio-contact@w3.mag.keio.ac.jp

図1 W3Cのホームページ
<http://www.w3.org/>





[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp